

箕面市障害者市民施策推進協議会結果報告書

会議名：令和4年度箕面市障害者市民施策推進協議会
第2回障害者計画及び障害福祉計画部会

日時：令和4年（2022年）11月7日（月）午後4時～5時

場所：総合保健福祉センター分館 2階講堂

出席者：構成員等6名、事務局2名

傍聴者：1名

協議内容：下記のとおり

1. 冒頭

- ◆事務局より配布資料及び案件と時間配分を確認。

2. 各案件

【案件1】第4次箕面市障害者市民の長期計画（みのお‘N’プラン）策定にかかるアンケート調査の実施について

- ◆資料に基づき事務局より説明。

- ◆以下のとおり質問、意見があった。

- ・ 各対象者の配布数は。

（事務局）

障害者でない市民は1,000人程度と考えている。統計上の計算式に基づく必要配布数によると障害児は全数配布となる見込み。障害者、障害児に重点を置いて聞いていきたい。

- ・ 健常者もこの内容に答えるのか。

（事務局）

障害児者のみ。健常者は別内容のアンケートとする。

- ・ 高齢化が進んでおり、65歳以上の比率がかなり多くなるのではないか。

（事務局）

65歳以上は障害福祉サービス利用者に限定する。

- ・ 介護保険のサービスを受けているかなどの質問も必要ではないか。65歳以上になると介護保険しか使えないと思っている人もいる。住まいの設問の選択肢でも、特養などもっと種類がある。住むところや誰が介護するのかなど、高齢化して困ることはいろいろある。

（事務局）

選択肢がなくて介護保険に移行したかたもいれば、引き続き障害サービスを使っている人もいる。高齢化による困りごとは選択肢のパターンとして入れられないか考える。

- ・ 差別について、相談窓口を知っている場合は具体的に回答してもらったほうがいい

- いのでは。また差別の定義がはっきりしておらず、主観によるところが多い。「不快な思い」という表現でもいいと思う。差別解消法が出来たことに依拠するような、かつわかりやすい設問にしてほしい。
- ・ 差別を受けた人がその後どうしたか、解決したのかは聞かないのか。
(事務局)
匿名アンケートではあるが、現在進行形で困っている場合も想定して、相談窓口の情報提供はできると思う。
 - ・ 全員を対象にはできないのか。
(事務局)
市民満足度アンケートでも、統計上の計算式に基づいて対象者を絞っている。
 - ・ 住まいについて。グループホームに入居していて週末だけ実家に帰ってくる場合はどうなるのか。家とグループホーム両方に丸をするのも違和感がある。
(事務局)
表現を考えて、一択で回答できるようにする。
 - ・ 外出について、どういう外出の場面なのかを書いたほうがいいと思う。
(事務局)
事業所への通所など以外のプライベートの外出を想定している。
 - ・ 余暇活動などの記載があったほうがよいと思う。
 - ・ 避難場所を知っているかは聞かないのか。
(事務局)
全体ポリシーもあるが、入れられるか検討する。
 - ・ 台風ではないが強風や大雨があったり、災害も多様になってきている。
(事務局)
台風や地震などを想定できる書き方にする。
 - ・ 今の計画の方針に則った内容になっているのか。
(事務局)
各設問が計画のどこに反映されるかを明言することは難しいが、時代も変わって考え方も変わってきているので、その変化が見えてきたらよいと考えている。
 - ・ 情報コミュニケーション法が成立したが、情報入手等に関する設問は。
(事務局)
「情報入手・意思疎通支援」のカテゴリにある。「情報」というと幅広くなるので、わかりやすいように障害や福祉サービスの情報と例示した。
 - ・ 主な収入を3つまで選択する理由は。
(事務局)
特に理由はないが、手当や年金など1つだけではないと考えたため。
 - ・ 無理矢理3つ選択してしまわないか。1つか2つしかない人もいる。
 - ・ 一番金額が多いものでよいのでは。

- ・ 子どもの場合は誰の収入を答えるのか。親の持ち家の場合も「持ち家」と答えてよいのか。

(事務局)

そのあたりが分かるように工夫する。

以上